



# 常磐每日新聞

正賀

高岡唯一郎

磐

城

病

院

田町 (電話二二四番)

護辯士

門傳清吾

平町 搔龜小路 (電話二四番)

(平町仲町)

電話二四三番

定額 一割金銭 一ヶ月金銭 郵税五厘  
廣告料 五割十二字詰一行五十銭  
休刊日 日曜祝祭日  
發行所 福島縣石川郡平町長橋町三五  
常磐毎日新聞社  
電話六三〇番

本社 印刷所  
印刷所 常磐毎日印刷所  
電話六三〇番

## 昭和三年の新春を迎へさせ給ふ

# 聖上皇后兩陛下

瀲々たる朝暉は大内山に輝きわたたりて、千代田の宮居、颯然として仰がる、別けても諒闇の期、既し明けて一としほと曠やかなるかゞやきに充てる昭和三年の春、叡聖文武にまします今上陛下には曩より大統をつがせ給ひて茲に諒闇明けの第一次新年を迎へさせ給ふ。

謹記したてまつるだに畏れお聖上陛下には、寶算御二十七の新春を迎へたまひ、玉體ますく御健やかに第百二十四代の天皇として世をしろしめされ、政務御親裁に殆んど御寸暇もあらせたまはぬ御精勵を漏れ拜承す。

斯くの如き内外政務の御多端にあらせらるゝ間に於かせられて、更に社會諸般の上に御造詣深くあらせ給ひ、常に生物學の御研究に勵ませられ、又御所内に稻田を設けられて、畏くも御みづから農業に御手を下したまひ、親しく農民の勞業を御體驗あらせられ精勵の範を示させ給ふ御乾徳の彌高き唯だ唯だ崇高を仰ぎ奉るのである。

今上陛下の御護祚あらせられしと同時に國母陛下ならせ給ひし皇后陛下は、輝徳いや高くましく、茲年御二十五の新春を迎ゆさせ給ふた、大正十四年十二月六日第一皇女照宮成子内親王御誕生あそばし、昨年九月十日に第二皇女久宮裕子内親王御誕生遊ばし竹の園生彌繁りに繁らせ給ふ。

諒闇こゝに明けて兩陛下には輝かき昭和三年の新春を迎へさせ給ふを拜し、恭しく寶祚の無窮、聖壽萬歳を祈り奉るのである。



細く長く雅志餅の引伸ぶる如く不折の如かり

### 冲天に躍る龍の様 活躍の歳を迎へて

#### 伏見平町長語る

いよいよ、諒闇も明け輝けきすや一大飛躍の来るべき年、昭和の新春を迎ふることになり、願みれば昨年、は先帝の御大喪に世を擧げて悲悼かぎりなき年を迎へし、かも

#### 未曾有の

財界の恐ろしい政變等がありな

#### 有無に關

はらず衆議院議員總選舉に依つて

かゝるに多難の年でありました、唯英明の今上陛下を仰ぎ奉ることにより國民は其處に非常の力つよさを感ずるといふ難有い昭和新政の下に鋭意國運の伸張に努めたのであります。かかるに干支も

#### 辰年ごい

ふ飛躍の整理もなり加ふるに新春の氣分は自ら活動の源流をなすに觀ても經濟的に觀ても必やうにも感ぜられます。

### 平町學齡兒童 前年と反比例

#### お正月用の食料品 一般に値段が高い

平町の本年度學齡兒童は調査の結果女三百六十八人男

平町地方の乾物店頭に積まされた正月用の食用品相場は、

### 平町市場の調べ

#### 五割強の生産に過

平町地方の乾物店頭に積まされた正月用の食用品相場は、

#### 四萬箱に

に比し年

數強の二萬五千位に過ぎないの露領ものも前年漁獲の三割減と云ふので大體に於て二割強の高値を唱へられ進物用向き大物などは殊更強調を見せ數の子も産地の北海道樺太で本年は三萬

### 年賀便が減り 小包は増す

#### 平局の状態

諒闇明けで忙しかるべきをの一千七個と較べ三分の

### 汗の結晶百圓を 小學校へ寄附

#### 美しい心根に感激

石城郡平窪村大字平窪雜れた

### 三錢宛 宛

#### 宛

貨商岩谷萬作さんと云ふお爺さんは此程木田村長宛に

### 名刺の智識

#### は

人を訪問する際に名刺を差出す風習は随分以前から行はれて

### 恭賀新年

#### 年頭に際し謹んで 諸彦の御健康を祈

昭和三年一月一日  
常磐毎日新聞社  
社長 川崎文治  
理事 鈴木實  
主任 緑川松太郎

### 心機一轉の 氣分が漲る

#### 平地方の近況

平町を中心として附近の狀態を見ると諒闇明けの正月を迎へるに際し、殊に御大典の行はせらるゝ新しい年を迎へる譯で心機一轉の氣分は漲つて洋服店、呉服店へは相當晴着の注文が殺到し洋品店帽子店へは中山

### 名刺の智識

#### は

人を訪問する際に名刺を差出す風習は随分以前から行はれて

てたゞの訪問か何かよるこびのために参上したかおみやみに出たかを簡單に傳へるために名刺の一端を折まげてさし出すのであります。その方法はまづ普通の訪問の場合には名刺の向つて右の肩を折つて出し、折る際には左の肩を折ることになつてゐます。およこびの折る際には右の端を折るおわかれの際には左下を折ることになつて居ります。

のが其貴い百圓である事が判つたので木田村長はじめ村民は萬作老爺の美しい心根に感激してゐる

其頃から毎日三錢宛金神様の御禮に御禮する度にお賽錢として貯金箱の中に溜めて来た

た幾らかでも餘裕の出来た生活を営む事になつたのは村のお蔭である別に老の俸給生活者が多く物價が一般に下落して生活向きも餘程改善されてゐる處へ相當から惠まれる事請合である

その折り目の大きさはおよそ三分位が適度であります。なほ夜會等に招待を受けて参上した場合には中央部から内側へ折ることになつて居ります。日本でも一部の人は折られて居りますが、訪問を受けた方では何の意味も立たぬ譯であります。これは一般的に知つておく必要が有ります。



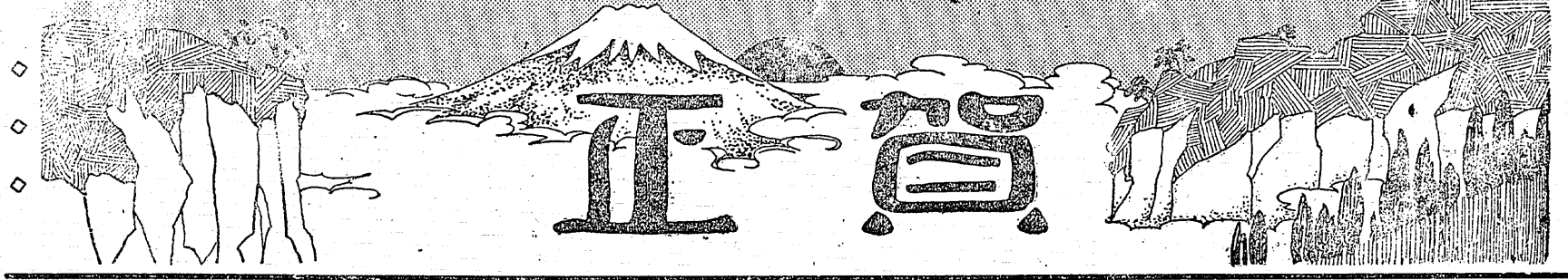


### 雙六の復古

雙六はまことに新年に相應しい遊戯の一つであつて上下何れの家庭に於ても喜ばれ、軍艦雙六とか、運動雙六とかの世界一週雙六とか年々色々の新案が出て玩具屋の店頭を賑はすのであるが、豫て土佐流の描法と租述して最も有識に述する村田丹波書伯、其他二三の好事者流に依つて宣傳され、近來大分復古の徵ある故實の雙六は實地に試みたことは素より、見たことも無い人が多からうと思ふ、依つて其由來と法とに就て大要を記送し、見様

律及び捕亡令の中にも雙六構蒲の類總て禁斷と云ふ明文が掲げられてある、構蒲とは俗に云ふチヨボ一のことであるがどうも是を博奕道具に使ふ弊は容易に矯正されなかつたものと見え、天中勝寶六年の禁令には其禁を侵せるもの、制裁に就て六位以下の者には決杖一百とか五位は見任を解き位祿位田を奪ふとか、身分に應じてそれ、嚴罪が科せられるやうになつた

降つて鎌倉時代に及んで、武家の間にも盛んに流行したらしく吾妻鏡寶元元年十月の條に「雙六侍者」に於ては許さるべく、下臈に至つては停止せしむべしとあり蓋し思慮乏しき下臈の輩は此遊戯に心酔して自ら放縱無頼に陥るからで、盛、一衰はあつたらうが、徳川氏の初期に於ては殆ど廢れ、之に代つて佛法雙六官位雙六などの簡易の遊戯が興れた、是は名こそ雙六云ふのも此遊戯であるが、陳思王の創製に係ると云ふ典據は何も無い矢張り印度に始まつて支那に輸入され、たものらしく即ちね盤經に見ゆる波羅塞の戲が其れである云ふ説が當つて居るやうである、其れが更に東漸し本邦に傳はつたのは何れの時代であるか、之れもハッキリとは判らないが、紀の持統天皇元年十二月の條に「丙辰禁斷雙六」と云ふ明文のある處を見ると、雙六が轉じて繪雙六となり、今日の花骨牌の如く金やがて東海道五十三次の道錢を賭して、其勝負を争ふ結果、大に風俗を害し人心を荒ばしむるに至つた處から遂、發して此禁令となつたものだらう其後大寶の雜



<p>福島縣石城郡平町五丁目 <b>東部電力株式會社</b> 平營業所</p>	<p>平町二丁目 <b>西村屋藥局</b> 電話長三番</p>	<p>石城郡平町一丁目 雜貨物 <b>大一屋商店</b> 電話十三番</p>	<p>平町搔槌小路 <b>江口忠一</b></p>	<p>東京海上火災保險株式會社代理店 <b>阿部政右衛門</b></p>	<p>平町白銀町 <b>高橋龜松</b></p>
<p>磐城シヤモット煉瓦製造所 所主 <b>堅田欽次</b> 工場 福島縣石城郡赤井 營業所 福島縣平町白銀町 電話七四二番</p>	<p>磐城平町長橋松屋號 和洋菓子 <b>遠藤松之助</b> 電話五二二番</p>	<p>平町三丁目 <b>三井吳服店</b> 電話三八番</p>	<p>活動常設 <b>平館</b> 松田卯太郎 電話四六六番</p>	<p>石城郡平町四丁目 ペンキ諸看板美術工藝部 <b>大音堂看板店</b> 鹽田勝治郎</p>	<p>平町田町 牛料理 <b>石川亭</b> 御料理 電話四三番</p>
<p>平町 <b>料理屋組合</b></p>	<p>和洋結髮 美顏術 白赤毛染 <b>水野化粧院</b> 平町四軒町 電話五二五番</p>	<p>平町紺屋町 和洋菓子 <b>問屋開進堂商店</b></p>	<p>平町長 <b>伏見彦衛</b></p>	<p>福島縣平町 <b>吉馬目啓太郎</b> 電話五四七番(電略マノメ)</p>	<p>福島縣石城郡平町 <b>磐城建物株式會社</b> 電話五一八番</p>

正賀

哺乳器各種製作發賣  
度量衡器計量器販賣  
東京市本所區北二葉町二番地

岡田大助商店  
電話長墨田五〇四二  
振替東京五一〇三七

三森虎雄  
平青年團長  
平町三丁目

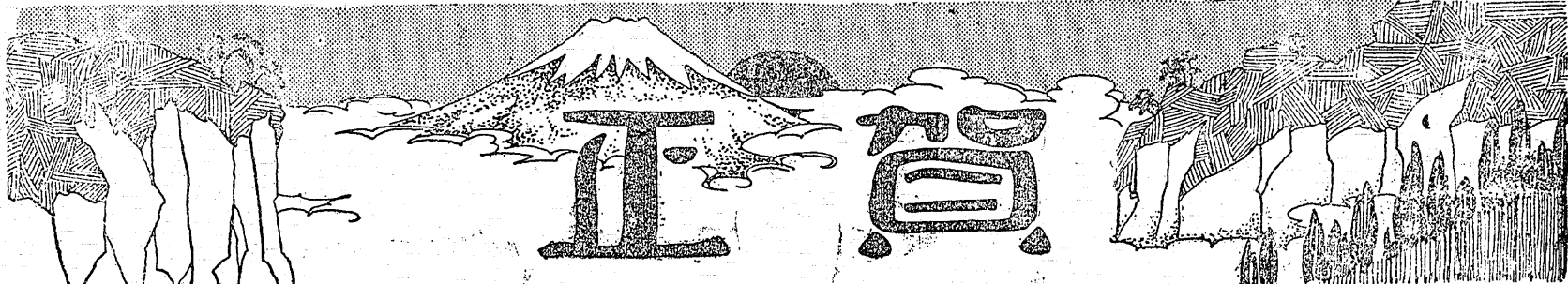
湯本町  
旅人湯常陸館  
電話六番

柔道教師  
うちみ、ほねつぎ専門  
會田整骨院  
石城郡湯本町

石城郡四倉町  
江口清

洋酒罐詰食料品海產物商  
醬油味噌  
關内半平  
平町長橋  
電話一六〇番

醬油味噌醸造業  
奧山庄作  
平町長橋  
電話五〇三番



<p><b>平町青物商組合</b> 會長 廣木正一商店 副會長 高木福太郎(三丁目) 會計 新妻商店(古鍛冶) 役員 森商店(長橋町) 袋屋商店(四丁目) 石屋商店(紺屋町) 大方商店(胡摩澤) 高子商店(長橋町) 扇屋商店(長橋町) 穴澤商店(長橋町) 中島商店(古鍛冶) 桑原商店(古鍛冶) 藤井商店(驛前) 谷津商店(胡摩澤) 高田商店(搔槌小路)</p>	<p><b>工業商會</b> 佐々木健一郎 平町四丁目</p>	<p>株式會社 <b>百澤商店</b> 電話一二番 平町四丁目</p>	<p>セメント人造石 防水劑ロークス 住吉屋分店 <b>酒井伴藏</b> 磐城平町二丁目 電話六六一番</p>
<p>石城郡第三區 <b>小學校長會</b></p>	<p>平町公立 <b>學校長懇話會</b></p>	<p>諸機械商 <b>田邊忠藏商店</b> 平町白銀町十四 電話七六一番</p>	<p>高級京染 <b>鎌田善六商店</b> 福島縣平町大町 電話三七三番</p>
<p>平町南町公會堂前 <b>青木寫真館</b> 電話四二二番</p>	<p>平町鎌田 <b>岡田牛乳舍</b> 電話五一番</p>	<p>二本松電氣株式會社 <b>平出張所</b> 平町白銀町六 電話六一三番</p>	<p>平町三丁目舊郡役所通 洋品雜貨 <b>ヨドヤ商店</b></p>
<p>正椿油煉香油 <b>田卷香油店</b> 電話四一五番</p>	<p>各種提灯商 <b>スガノヤ提灯店</b> 磐城平町四丁目 電話七一二番</p>	<p>荒物卸商 <b>山田榮松</b> 商號やまたや</p>	<p>貴金屬時計 <b>金光堂時計店</b> 平町五丁目 電話七三六番</p>
<p>平町一丁目 <b>仙臺屋洋服店</b> 電話一一七番</p>	<p>平町一丁目 <b>坂本紙店</b> 電話長一八番</p>	<p>平町南町四九 <b>鈴木染工場</b></p>	<p>紺屋町 <b>扇屋柳助</b></p>
<p>東京鐵道指定 郵便局旅館 <b>山本屋旅館</b> 平町三丁目 電話二八八番</p>	<p>小問物雜貨化粧品 卸賣 <b>大黒屋商店</b> 平町三丁目 電話一一六番</p>	<p>平町四丁目 <b>勇屋はき物店</b></p>	<p>石城郡平町新川町 <b>佐藤材木店</b> 電話三三五番</p>
<p>石城郡湯本町 <b>若松條助</b></p>	<p>白石興行部 <b>三函座</b> 湯本町</p>	<p>湯本町 <b>鈴木稻實</b> 電話三一三番</p>	<p>片岡千恵藏主演 <b>天狗の物語</b> 萬花多寶塔 有聲座</p>

常磐日新新聞

第一千九百九十九號

(五)



常磐文藝

賀正

哺乳器各種製作發賣  
度量衡器計量器販賣  
東京市本所區北二葉町二番地  
岡田大助商店  
電話長墨田五〇〇四二  
振替東京五一〇三三七

木の枝  
コバルトの空に舞ふつて  
る細い枝よ  
微風が吹いて来て  
木の枝がほろほろと居る

花  
私の淋しい部屋に  
輝きを與へる花  
野生の花

風  
先日、友と散歩の時  
随分嬉しくて帽子の  
リボンの側に挿して歩いた  
のはお前だ

風よ  
見てみると遠方から  
ぐるぐるとほこりや木の葉  
を巻いてやつて来る  
俄かに木々や草叢が囁きは  
じめる

私の眼の前をささなり過ぎ  
る風よ  
私の感情もお前の優しさの  
うちに溶けこんでゆく

木  
優しく風を起して空中に立  
つてゐる木々よ  
お前は實に静かだ  
一本の枝ぶりも粗末な美に  
溢れてゐる。

松の傘  
岡光吾妻  
村のはづれに  
一人ぼつちのお地藏さん

雨時も日ざらし  
雨ざらし  
さらしめめんの  
白頭巾  
づきんのの上には  
松の傘

逢はざれば  
逢へばとて  
語るべき言葉なければ  
あわざれば  
戀しき人よ  
逢はずとて  
わするゝいとまなければ  
あわざれば

わかれ  
なつかしい  
十九のとしよ  
さようなら  
肩上げを  
はじめた取つた  
淋しさも  
思ひ出されてなつかしい  
若さと涙を織りませた  
十九の夢の銀小函  
いつまでも

わかれ  
わがらかに口笛きこゆさ  
そわて吹けぬ唇をば動  
かしてみぬ

さとう・きよこ  
狂はしき心抱きて生きて  
行く今の世もたゞに君あ  
ればなり

書き初めしたよりに散れ  
る山茶花のあざやかな紅  
をいそほしいと思ふ  
静もれる初冬の日の氣ま  
ぐれに空氣銃など取り出  
してみぬ  
風もなき暖かき日に朽  
葉も夢をみよとや蝶の飛  
び居り

平青年團長  
三森虎雄  
平町三丁目

福島縣平町大町  
電話三七三番  
洋品ヨドヤ商店  
電話七三六番  
金光堂時計店  
平町五丁目  
電話七三六番

湯本町  
旅人湯  
常陸館  
電話六番

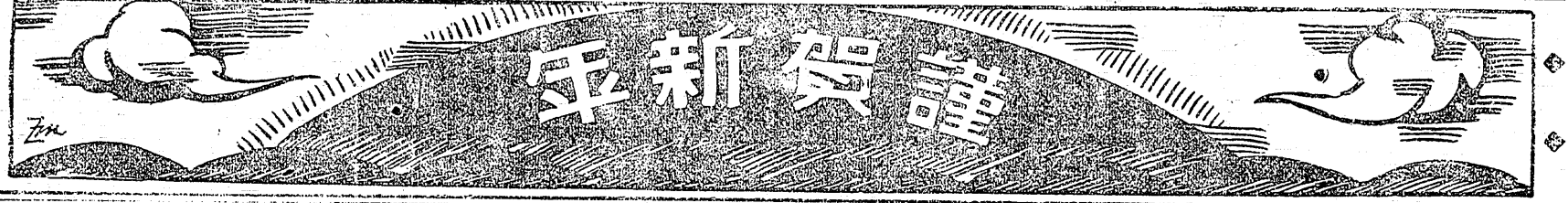
柔道教師  
うちみ、はねつき専門  
會田整骨院  
石城郡湯本町

石城郡四倉町  
江口清  
洋酒罐詰食料品海産物商  
醬油味噌醸造業  
平町長橋  
電話一六〇番

高野分店  
高野卯之吉  
田町(電話五二五番)

株式會社星製樂磐城配給所  
專務取締役  
駒木根忠三  
福島縣石城郡平町  
三丁目三十番地

三瓶電機商店  
電氣諸機械商  
三瓶嘉久也  
磐城國平町南町  
電話七三三番



久釜屋商店  
和洋銅鐵  
金物問屋  
平町五丁目  
電話一三九番

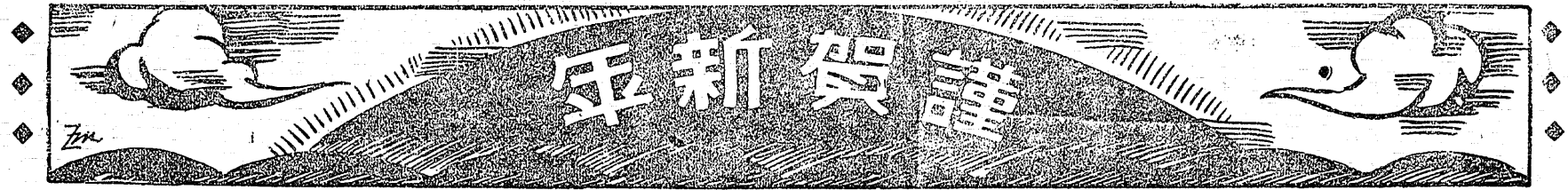
赤心堂病院 平田町 電話四七五番	酒井醫院 平南町 電話五五番	大森醫院 平南町 電話二五八番	矢吹醫院 平古鍛冶町 電話二六六番	鈴木眼科醫院 平研町 電話四三八番	吉田眼科醫院 平南町 電話六八番	星眼科醫院 平南町 電話四七一番	根本婦人科醫院 平南町 電話三四番	金成醫院 平鎌田町 電話三五八番	大和田鼻科醫院 平南町 電話一七〇番	藤沼醫院 平紺屋町 電話五〇七番	松村病院 平南町 電話一〇七番
------------------------	----------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------

高野分店 高野卯之吉 田町(電話五二五番)	遠藤帽子店 平町二丁目	食道樂 大貞 電話四一三番	中野勇吉 平町	尼子亭 平町松ヶ岡公園内 鐵道省指定旅館 電話二二〇番	吉田伴吉商店 電話二二五番 吉伴鐵工所 東京吉伴出張所 京橋五三三七番	植頭鶴松 平町長橋町 電話一七四番	宮崎善太郎 旅館 水戸屋 磐城平町前 電話三五六番 (電略ミヤ又ハミ)	カフエー 西洋料理 松ヶ岡 平町公園前	三瓶電機商店 電氣諸機械商 三瓶嘉久也 磐城國平町南町 電話七三三番	駒木根忠三 株式會社星製樂磐城配給所 專務取締役 福島縣石城郡平町 三丁目三十番地
-----------------------------	----------------	---------------------	------------	--------------------------------------	---	-------------------------	---	------------------------------	--	---

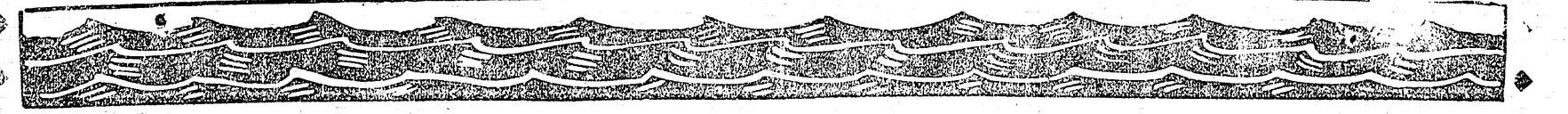
平町 西洋料理業 合	平町 御料理 つたや旅館 電話三十二番
------------------	------------------------------

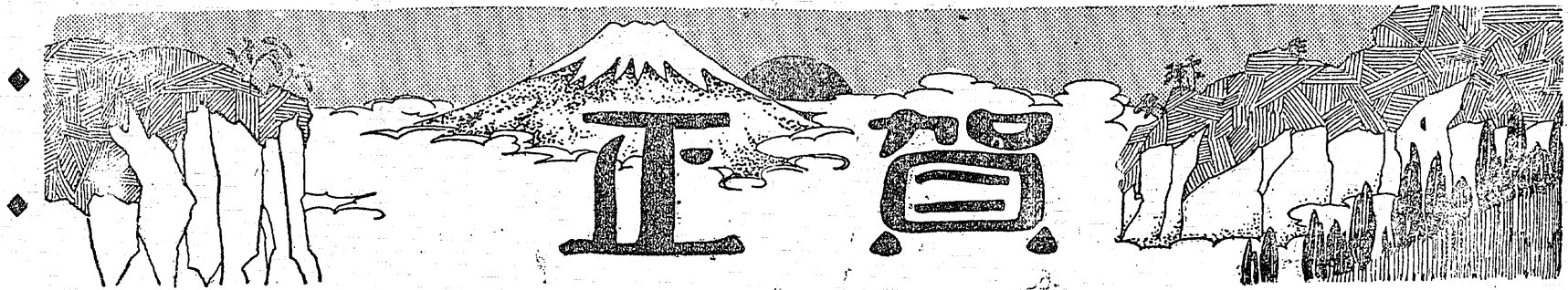
佐藤製材所  
佐藤藤助  
佐藤福太郎  
外社員一同  
有聲座  
マキノ帝キネ映畫





<p>株式組織ニシテ相互會社ヲ 兼有スル特長アル 横濱生命保險株式會社平代理店 契約者ニハ初年度ヨリ利益ノ配當ヲナス</p> <p><b>中野甲藏</b></p> <p>平町三丁目 電話七五四番</p>	<p>久野喜久</p> <p>小名濱町 電話七五四番</p>	<p>磐城水産工業株式會社</p> <p>石城郡小名濱町字元分 電話六六番 全 四六番</p>	<p>佐川齒科醫院</p> <p>平町田町三丁目北裏 電話七五九番</p>	<p>平町會議員一同</p>
<p>赤井村</p> <p><b>川瀨炭礦礦業所</b></p> <p>平町南町 電話十四番</p>	<p>割烹 大和家</p> <p>磐城平町字新町 電話十四番</p>	<p>岡部織物店</p> <p>松ヶ岡公園池乃端 旅館と 電話二二六番</p>	<p>河西八十治</p> <p>平町四丁目 電話六六番 全 四六番</p>	<p>多田井商店</p> <p>質券兩替 平町大工町</p>
<p>平町搔籠小路 <b>乾書店</b> 電話三一五番</p>	<p>荒物陶器御商 <b>松崎長三郎</b> 新川町(電話一七二二) 振替東京一五一九九</p>	<p>平町長橋町 <b>小野園次郎</b> 電話二五一番</p>	<p>平町二丁目 <b>三井履物店</b> 電話一五六</p>	<p>平町新川町 <b>諸橋吳服店</b> 電話特長五〇</p>
<p>磐城平材木町八番地 木材石油礦油 各種油販賣 <b>榎田榮太郎</b> 電話長(二四八)電略(クシ)又(ハク)</p>	<p>平町砂糖商同業組合</p> <p>磐城平町二丁目 和洋鋼鐵 度量衡 <b>坂田藤助</b> 電話一二八番</p>	<p>平町 旅館 <b>住吉屋本店</b> 青天日源一郎 電話一五九番</p>	<p>平町研町 <b>吉村四郎</b> 電話四〇六番</p>	<p>平町南町 大蒲燒 <b>松本樓</b> 電話百十三番</p>
<p>平町久保町 <b>永山和平</b> 電話二〇七番</p>	<p>感冒神經痛 リウマチス特藥 濟命ピリン <b>水野藥局</b> 平町研町</p>	<p>福島縣平町搔籠小路二四 鋸製造業 ヤスリ販賣 <b>中屋長三郎</b> <b>綠川喜三郎</b> 振替仙台三六〇三番</p>	<p>磐城平停車場前 旅館 <b>住吉屋支店</b> 電話百四十九番</p>	





帝キネ  
マキノ  
**東北第一封切場**

説明者 全  
全 琵琶 全  
全 音楽部  
事務員 計  
會館主 任  
主 任  
有  
富岡春朝  
月岡秀誠  
町田東州  
丸山錦陵  
大石錦恭  
明山錦榮  
森山錦同  
外館員一助  
漆間善助  
北郷竹治郎  
梅澤石松  
小島三正  
電話四四六番

平町二丁目  
御料理  
仕出し  
**みたいや**  
電話六三七番

平町材木町  
**柏屋染物店**  
阿部傳六

醫療藥品工業藥品有名  
賣藥繪具染料醫療器械  
**小野屋藥店**  
平町四丁目  
電話一四四番

磐城國平町一丁目  
**和久井屋**  
漆器店  
電話四〇五番

内外米雜穀、  
肥料委託賣買  
**花澤久一郎** 本店  
平町胡摩澤(電話三三二)  
**花澤久一郎** 支店  
平町二丁目電話七三〇番

平看護婦會長  
**清野清子**  
平町南町

日英米佛獨專賣特許  
福島縣平町  
女王  
醬油  
**ヤマト醬油株式會社**  
社長 白井一郎  
專務 遠藤俊一郎  
(平) 電話七四一  
(江名) 電話二十七番

**平藝妓屋組合**  
三橋竹二山久三甲谷玉  
島之葉形好  
家亭家家屋本家子口川  
吉野 湖開 仲福 品林 富美 野米 榮野  
家花 家月 家清 家澤 家の 家京 家口

和洋菓子問屋  
**永野キャンデーストア**  
平町二丁目八  
電話七五五番

醫療藥品工業藥品有名賣藥  
洋酒罐詰染料塗料壁用材料  
**關内藥舖**  
藥劑師 關内榮助  
福島縣平町四丁目  
電話四〇番(セキ)  
振替仙台六三一六番

磐城平町二丁目廿九番地  
**清光堂書店**  
關内彦太郎  
電話一三一番

**ベニヤ小鳥店**  
主任 白土喜伯  
福島縣平町田町大通り  
電話(呼出)六三九番

平町  
**材木商組合**

平驛前  
**平運輸株式會社**

時計洋品商  
**大谷時計店**  
常磐線平町三丁目  
電話長一九番

御料理  
**玉よし**  
平町南町川岸通り  
電話四二六番

御料理  
**越の家**  
平町二丁目  
電話三三〇番

飯野村長  
**伊藤淺之助**

平町五丁目角  
**山野邊藥局**  
藥劑師 山野邊東次郎

小名濱町  
**小野務平**

磐城平町四丁目  
**マツモトヤ**  
電話二一四番

喪中ニ付年始欠禮仕り候  
農工銀行頭取  
**白井博之**

磐城銀行專務  
**白井一郎**

上小川村  
**草野欽一郎**

に觀ても經濟的に觀ても必やうにも感ぜられます。  
の北海道様大で本年は三萬ものは朝鮮産の再調製ものぐましい働き振りが續けら  
即ち西洋では訪問に際し  
折ることになつて居りま  
ておく必要が有ります。

正賀



石城銀行組合

磐城銀行 平町三丁目 電話三三番五五番  
 磐城越前銀行 平町二丁目 電話三〇番六三四  
 磐城實業銀行 平町南町 電話二〇番五五番  
 七十七銀行 平町四丁目 電話一二番四四番  
 農工銀行 平町二丁目 電話四二番四四番  
 磐東銀行 平町四丁目 電話三六八番  
 第四百七銀行 平町四丁目 電話三一八番  
 常磐銀行植田出張所 植田町 電話六五番



元造 鹽屋  
 山崎合名會社  
 福島縣平町土橋  
 電話 營業部 一〇番  
 製造工場 二七番

舊年中は格別の御引立を蒙り難有奉謝候  
 尚本年も相更らず御愛顧奉希上候  
 一月一日

福島縣石城郡内郷村  
 磐城炭礦株式會社  
 礦業所

石城郡湯本町  
 入山採炭株式會社  
 礦業所

植田水力電氣株式會社  
 社長 金成通

平町二丁目  
 關内正一

石城郡平窪村  
 松本徳一

磐城セメント株式會社  
 四倉運送倉庫株式會社  
 四倉電氣株式會社  
 磐城銀行出張所

縣會議員  
 山崎吉平

古川傳一

鈴木辰三郎

赤井村字田町  
 矢野達

千代田生命保險相互會社平代理店  
 草野順平

加藤丈夫營業所  
 貸家地所代理店部 (平町字白銀町) 電話三三番  
 昭和田園 (平町字大町) 電話三三番  
 早月益棧土管販賣部 (平町字大町)  
 早月養生栽培部 (平町字鷹匠町)  
 草花切花養生栽培部 (平町舊城跡本丸) 電話三三番  
 平乘馬會 (平町字大町)

小田炭礦株式會社  
 礦業所

古河炭礦  
 好間礦業所

石城郡山田村  
 安島重三郎

仁壽生命保險相互株式會社  
 平出張所長  
 三溝幾馬 (平町仲町)

磐城共濟病院  
 院長 難波 睦  
 醫學博士 渡邊 桂太郎  
 內科部長 木村 淳  
 外科部長 野秋 善直  
 產婦人科 吉本 孝平  
 藥劑師 永井 マスノ  
 看護婦長 鈴木 寶雄  
 庶務會計 賀澤 忠治  
 本院主事 賀澤 忠治

廣瀨支店 (電話五四番)

平町二丁目  
 藤市 電話三五番

倉庫搬運門各種  
 建築諸金物製作  
 吉野喜十 平町鍛冶町五

平町二丁目  
 小原喜八 電話四六二番

打綿類布關製造開屋  
 吉村安次郎 磐城國平町研町 電話長二五七番

平町長橋町  
 酒類 柏木支店 電話二四三番

高岡唯一郎

磐城病院 (電話二一四番)

護辯士 門傳清吾 (平町搔搥小路 (電話二四番))

定額 一〇〇金銭 一ヶ月金納 郵税五厘  
 廣告料 五號上二字詰一行五十錢  
 休刊日 日曜祝祭日  
 印刷所 發行所 常磐每日新聞社  
 電話六三〇番

本社 印刷所 常磐每日新聞社  
 電話六三〇番